
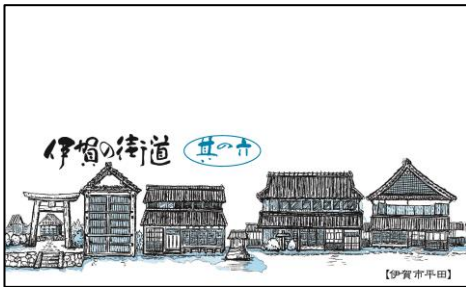


「伊賀の街道」 配布デザイン

1 伊賀の街道名刺台紙デザイン

① 其の壱 伊賀市上野農人町界限	
表面	裏面
	<p>上野天神祭のダンジリ行事</p> <p>400年の伝統をもつこの祭りは、重さ120kgもの日本一の犬御幣を先頭に役行者や鎮西八郎為朝、百数十体の鬼行列、絢爛豪華な9基のだんじりが囃子を奏でながら城下町の通る街道を練り歩きます。国の重要無形民俗文化財に指定されたほか、ユネスコ無形文化遺産に登録されました。</p>
② 其の弐 名張市中町、榑町界限	
表面	裏面
	<p>初瀬街道</p> <p>大和と伊勢を結ぶこの道は、齋王が都から伊勢へ赴いた道でもあり、その歴史は古代までさかのぼります。この名張旧まち界限は江戸時代から続く酒蔵や老舗が連なり、城下町として栄えた往時の風情を残しています。</p>
③ 其の参 伊賀市柘植町界限	
表面	裏面
	<p>大和街道</p> <p>関宿で東海道と分かれ奈良へと続くこの街道の東端、JR柘植駅近くこの界限には明治時代、関西鉄道敷設の際、トンネル用に造られた赤煉瓦のうち不良品が街道沿いの屋敷の塀に活用され、今も当時のハイカラな風情を伝えています。</p>
④ 其の四 伊賀市島ヶ原与衛門坂	
表面	裏面
	<p>大和街道</p> <p>この街道は、関宿で東海道と分かれ、難所として知られた島ヶ原の「与右衛門坂」を越えて奈良へと続きます。島ヶ原宿は、大和の諸大名たちが参勤交代の際に利用した宿場として栄えましたが、藩主の藤堂高虎は「秘蔵の国」と呼ばれたこの伊賀の道を、国防のために険しいまゝにしておいたといわれています。</p> <p>また、正月堂と呼ばれる「観音提寺」は、毎年二月に修正会が行われます。</p>

⑤ 其の五 伊賀市伊勢路界限	
表面	裏面
	<p>初瀬街道</p> <p>大和から伊勢神宮へ、伊勢から初瀬(長谷)寺へ。 お伊勢参りや初瀬詣でが盛んになるにつれ、この街道には大勢の人が押し寄せ、青山峠の麓の「伊勢路宿」はたいそう賑わったといわれています。</p> <p>表の絵にあるかつての旅籠「もみじや」「とくだや」「やまとや」は、馬に乗った人がそのまま入るよう一階が高くなっており、「太一」と刻まれた常夜灯とともに、静かに往時の風情を偲ばせています。</p>
⑥ 其の六 伊賀市平田界限	
表面	裏面
	<p>伊賀街道</p> <p>この街道は古くは「伊賀越奈良街道」と言われ、京、大和方面と伊勢神宮を結ぶ参宮道のひとつでした。江戸時代には、伊勢、伊賀二国の藩主となった藤堂高虎が二つの城下を往来する重要な官道となり、平松宿、平田宿などの宿場を中心に賑わったといえます。</p> <p>平田宿では、今も街道筋の面影の残る通りが「植木神社祇園祭」の舞台となっています。</p>

2 伊賀の街道イラスト

①其の老 伊賀市上野農人町界限	②其の弐 名張市中町、榊町界限
	
③其の参 伊賀市柘植町界限	④其の四 伊賀市島ヶ原与衛門坂
	
⑤其の五 伊賀市伊勢路界限	⑥其の六 伊賀市平田界限
	

<参考：使用例>

・名刺台紙デザインの使用例

【表】



【裏】



※伊賀地域県事務所では、職員用名刺にこのデザインを活用し、伊賀地域の魅力を発信しています。

・イラストの使用例

